

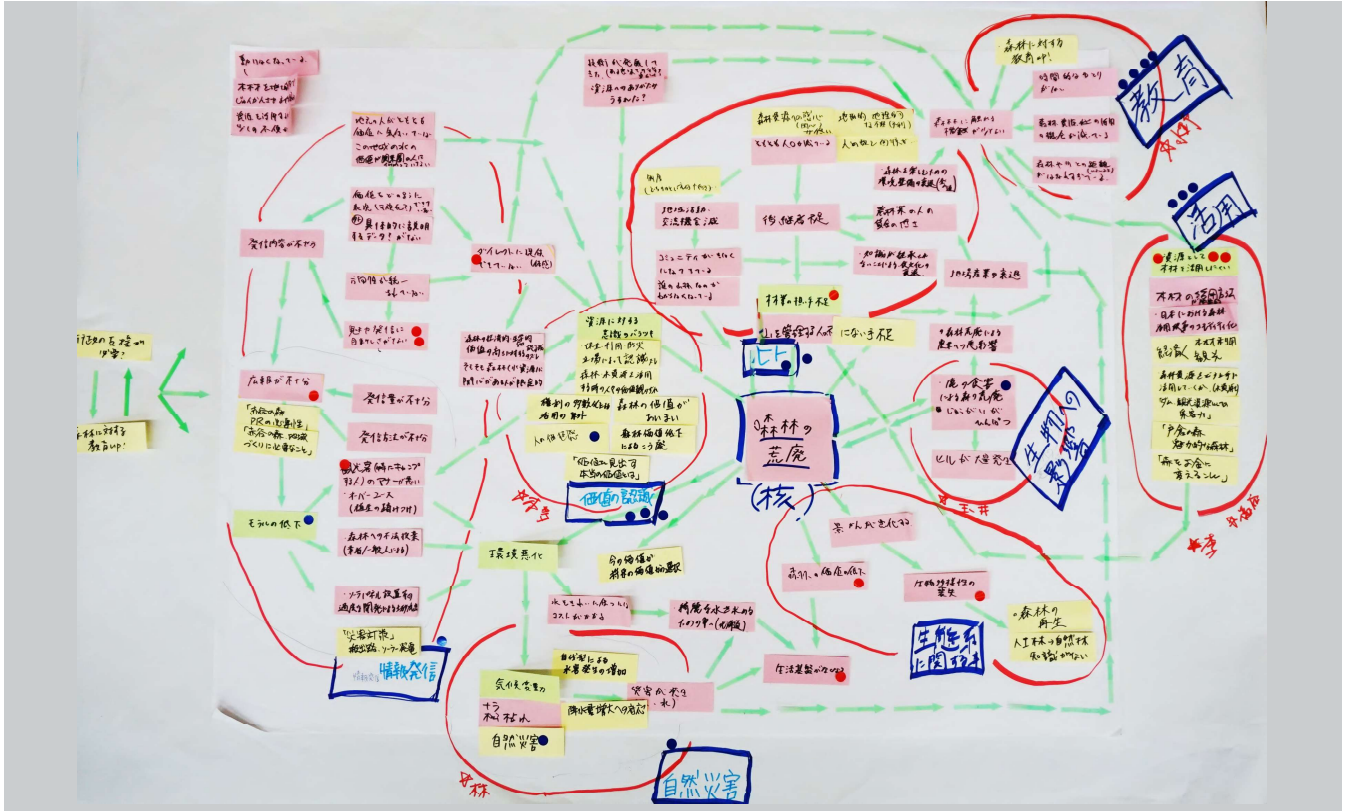
話し合ったテーマ 基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

この地域の森林資源（＝水資源）がもつ価値の再認識 ①

自治体名  
みなかみ町

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのかを、「問い」のかたちにまとめました。

1 環境の意識が弱い

この地域に暮らす子ども達が、この地域の自然の価値を知ること、この地域に愛着を持ち、暮らし（関わり）続けるために、何が可能か？

2 森林資源が十分に活用されていない

森林資源に関心がある大人が、森林資源の活用方法を知ること、森林資源を様々な活用にできるために、何が可能か？

3 森林・水資源への関心が薄い

利根川流域に暮らす人が、この地域の森林・水資源に関心を持つことで日々の生活の中で、ときどきでよいので森林・水の恵みに想いをさせるために、何が可能か？

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

<p>いつでも木に触れ合える森林ステーション</p>	<p>木材が必要な時に、地域の人たちが、いつでも購入できたり、加工できる場所。この場所を経由して FSC 認証された製品も購入できる。さらにテーマパークのような町オリジナルの仕事体験を通して里地に関わる体験ができる。</p>	<p>源流ウイスキー</p>	<p>2025 年頃からの製造を目指して、矢木沢ダム付近または、現存する酒造会社のスペースで、地元の酒造会社または合併会社（自治体も土地の利用などを手助けする）が、矢木沢ダム付近の冷涼な土地でウイスキー蒸留所をつくり、ウイスキーをつくる。ゆくゆくは見学ツアーも実施。出来上がったウイスキーはふるさと納税の返礼品にもなる。</p>
<p>森林資源を用いた地域のオリジナル製品作り</p>	<p>みなかみ町の森林にある木工所で、工芸などを体験したい人が、木材の切り出し体験や木工作業の教育指導を受けられる。宿泊とのセットでツアーの販売も行う。地域の資源を利用し、炭焼き、木工品などでオリジナルブランドを作り、販売する。</p>	<p>源泉ツーリズム  リピーターを確保する森（自然）の特別体験</p>	<p>年一回の源泉調査時に、△△温泉地域等の源泉でツアーを行い、普段見れない源泉などを巡る。フォトスポットマップの撮影や作成を行う。源泉調査を通じて、この地域かつ環境に意識を向けてもらい、価値の再認識を図る。  都市生活に疲れた人や、特別な体験がしたい人と地域に暮らしている子どもたちの交流。地域の子も子ども達がガイドになり、「和」を作る。都市以外にももっとできる場所を提供する。リピーターしやすい環境・サービスとして、マイコインロッカー制度や、ガイド付きでしか入れないルートを作り、森にある資源を使ったり、味わったりする。</p>